



同窓会報



北陵

会報 第38号

● 発行者 ●
栃木県立真岡北陵
高等学校同窓会
● 編 集 ●
同上編集委員会
● 印刷所 ●
(株)井上総合印刷

信じていたのに



同窓会会長
菅谷 善 六

昨年四月、同窓会総会において、前会長小坂利雄様の辞任に伴い、会長に就任いたしました。私は、浅学不肖の身であります。本会の円滑な運営と本校発展のため微力ながら最善の努力をいたす所存であります。で、どうか前会長小坂利雄様同様ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「僕は小学校四年のとき、鼻の手術で三週間くらい入院しました。入院前に学校で母と一緒に担任のB先生に会いました。そのとき先生は『病院に見舞いに行くから元気でいろよ』といってくれました。先生は僕のことを心配してくれているんだなあと、とてもうれしく思いました……」

「明日先生が来てくれるとの友だちの話を聞き、父も会社を休んでウキウキと先生を待ちました。しかし、先生は夜になっても来ませんでした……」

子供の立場でとか、子供の目の高さでとか、子供は先生に裏切られたような、また忘れられてしまったような、さびしい気持ちで退院しました。翌日、登校した僕に『退院できてよかったね』といってくれたが、それ以上何も変わらなかった様子はありません……」

「先生は、かっこいいことはいうけれど、そのことは本当なのだろうか。僕はそれ以来、授業中も先生を信じられなくなっていました。」

この文章を読んだ、もしかしたら私も、現職のころ、気づかないところで受け持の子の心を傷つけたのではないかと、どきどきしました。先生への不信はちよっとしたことから始まります。そして先生自身も気づかないことが多いのではないのでしょうか。

青年部長あいさつ



平成十七年度卒
野原 理恵子

青年部長の野原理恵子です。会報の発行にあたり、ご挨拶申し上げます。日頃から青年部の活動に對しまして、ご指導、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

今年、卒業される方で、協力できるという方は、ぜひ、活動に参加していただきたいと思います。最後になりますが、今後とも、青年部をよろしくお願いします。

本校に着任して



校長
大木 高之

同窓会の皆様には、平素より本校教育活動につきまして格別のご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。はじめに、私ごとではございますが、国府田校長先生の後任として4月から本校に着任いたしました大木高之でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。百年を超える伝統ある本校に勤務できますことを大変光栄に感じるとともに、この重責を名譽に思い、本校生徒並びに真岡北陵高校の発展のために全力で取り組んでまいりますので、同窓会の皆様のご支援並びにご教授をよろしくお

願い申し上げます。さて、生徒たちは明るく元気に誠実な学校生活を送っており、日々生徒たちの素晴らしい姿に深い感動を覚えています。これも一重に、生徒と職員の間で信頼関係、それを支えてくださる同窓会やPTAの皆様の協力の賜と深く感謝いたしております。そして、このような中であって今年度も本校生徒の目覚ましい活躍が展開されましたので、主な成果についてご報告いたします。

はじめに、吹奏楽部ですが、同窓会の皆様の多大なるご支援を得て、第三十七回全国高等学校総

合文化祭二〇一三長崎におかせ総文祭に出場することができました。新しい楽器を揃えていただき、生徒たちは連日の猛練習に取り組んで万全の体制で本番に臨むことができました。お陰をもちまして、生徒個々の持てる力を存分に発揮して栃木県代表として立派な演奏を披露することができました。生徒・顧問共々感謝いたしております。本当にありがとうございます。

ライフル射撃部は、今年度も多くの大会において成果を残してくれました。中でも七月に行われた第五十一回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会ではチームライフル女子団体の準優勝、男子団体入賞、各種目男女個人での入賞者を出すなど輝かしい結果を残してくれました。

陸上競技部は、県大会において中・長距離での活躍が目立ちました。特に総合ビジネス科一年の関上利華さんは第二十九回東日本女子駅伝競走大会並びに皇后杯第三十二回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会に栃木県選抜メンバーとして出場しました。両大会とも第二区間を走り、東日本女子駅伝総合第二位、全国都道府県対抗女子駅伝総合第十七位に貢献する素晴らしい走りを見せつけてくれました。この他の部活動においても県大会や関東大会において活躍が見られるようになり、今後の飛躍が大いに期待できると確信しております。

さらに、専門学習の分野になりますが、農業機械科三年の萩島翔太君が第六十四回日本学校農業クラブ連盟全国大会において、農業鑑定競技会農業機械コース最優秀(一位)受賞という輝かしい成績を残してくれました。

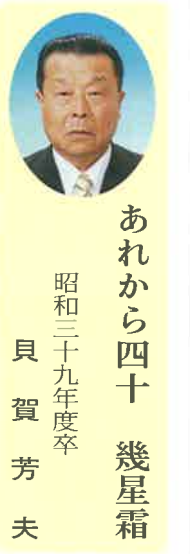


PTA会長として
昭和五十九年度卒
高平 登順

平成二十五年度PTA会長を仰せつかりました山前支部の高平登順です。同窓会の皆様には、日頃より本校生徒のため、PTA活動に対して、ご協力、ご支援を頂き大変感謝申し上げます。

微力非才の身ではございますが、精一杯頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今の社会、残念ながら現在の生徒たちを取り巻く環境は、決して良いも



あれから四十 幾星霜
昭和三十九年度卒
貝賀 芳夫

本校を卒業したのは、昭和三十九年度（四十年三月）でありました。その当時を振り返ってみますと、日本が戦後復興を経て、高度経済成長へと大きく変化する時期でもありました。私も、これからどう「わが家」の経済を進めて行くべきか、悩んでおりました。そこで両親と相談し、山林を開墾し、又畑等これらを水田（陸田）として、水稲面積の拡大を図っておりました。このような中で、意に反する減反政策が、実施されたのであります。

きました。昭和四十五年、宅建主任者の資格をとり、昭和四十七年、不動産業株式会社「芳栄」を設立、経営を継続し現在に至っております。又、上三川町は、昭和三十五年頃より、土地改良事業が実施、現在までに約九十％の水田が整備されております。これらの先人の智慧による賜であると、感謝しております。又、昭和四十五年頃、「四号バイパス」が町内を南北に縦断したのであります。また、近年北関東自動車道の開通に伴いまして、この結節点として「宇都宮上三川インター」ができ、交通の要衝として、便利となりました。私事で恐縮ですが、この地域を何とかしたい。又、少しでもより良い町を後世に引き継いでいく責務があると考え、地元有志の応援を頂いて、立候補、当選以来二十七年の歳月を重ね、現在も現役で頑張っております。「言行一致」を行動の指針として、この言葉に出来るだけ沿い「住んでみたい町」「住み続けたい町」を構築すべく、全力を傾注してまいりたいと考えております。そして、次世代の若者に「夢」と「希望」のもてる上三川町をバトンタッチして行きたいと考えております。本校の弥栄と当同窓会の益々の御発展、関係各位の御多幸、御健勝をお祈り致します。

優良同窓生表彰・祝賀会招待者

四月三十日に開催された総会において、優良同窓生の表彰をさせていただきました。また、総会後に開催された祝賀会並びに懇親会において、本会より記念品を贈呈させていただきました。

- 優良同窓生表彰
大塚 和生氏（大内）
鶴見 平氏（田野）
- 記念品贈呈
・旭日小経章
・飯野 守様
・旭日単光章
・廣田源太郎様
・内閣総理大臣賞
鈴木 幸一様
- ・衆議院議員当選
田所 嘉徳様
・真岡市議会議員当選
柳田 尚宏様
・上三川町議会議員当選
松本 清様
・貝賀 芳夫様
・山本 辰夫様
・JAが野組合長就任
高木 正夫様



北陵高校から
衆議院議員となって
昭和四十七年卒
衆議院議員 田所 嘉徳

私が本校を卒業する頃には「曲がり角の農業」と言われ、農家の長男は代々守ってきた家業を継ぐのが当たりまえという時代から、専業農家で生計を立てることが難しい時代になってしまいました。

多くの同窓生が、農業高校を卒業しても農業に就かず他に職を求めるようになり、私もご多分に漏れず、一級建築士や不動産関係、行政書士等の資格を取得して、建設業の会社を営むことにな

れました。経験を生かして「地方の響く政治」を実現しようと思うに至り、一昨年の衆議院総選挙に立候補し、多くの支持を得て当選させていただきました。国会議員となって特に思うのは、農業は曲がり角にあると言われて四十年もの月日が経ちました。今日に至ってなお、方向性が定まらないという事です。我が国の食料自給率はカロリーベースで四十％を割り、先進国の中では断然低く、なんとこれを改善しなければならぬという問題があるなかで、現在交渉が進められているTPPがどのような影響を及ぼすかが心配されています。

また、四十年以上続いた米の生産調整を廃止することや、農地の集約化を積極的に進める政策、農業・農村所得増進戦略が策定されるなど、大きな動きを見せています。

私は数少ない農業高校卒業の国会議員として、安全な食料を安定的に供給し、豊かな環境を保全する、農業の多面的機能の重要性を踏まえ、国益を守り、国内農業の発展のために全力を尽くします。



明日の専門家を
目指して
昭和四十二年卒
山本 辰夫

昭和四十二年、本校の卒業生として学舎を巣立ち既に四十六年が経過し、今、薄れ行く記憶を辿りながら思い出に浸り筆を走らせています。

（あしたには あさ日をあげ肩に……）

本校は、明治四十一年四月芳賀郡立農林学校として開校、大正十二年真岡農業学校に昭和二十三年に真岡農業高等学校、更に平成七年には、真岡北陵高等学校に校名を改称すると共に時代の流れに即した総合選択制専門学校への学科改編がなされました。

顧みれば、我が校の歴史は古く一九〇八年開校以来、現在で一〇六年になり、この間多くの人材を世に輩出した本校を自負する一人であります。

私は、昭和四十二年度本校を卒業し、日本経済の成長期に社会人としての第一歩を踏み出し、団塊の世代の先輩をはじめ多くの諸先輩のご指導を仰ぎながら生きてきました。

そうした教養のもと、自分なりの人生が成熟期を迎えた頃、地域の先輩達に推し進められ、町議会議員選挙に立候補し、多くの人の指示を受け初当選させて頂きました。

丁度その年、平成七年

一月十七日阪神淡路大震災があり、無残にも多くの犠牲者や壊滅をニュースで報道されたとき、自分の立場に大きな責任を感じ「人にやさしいまちづくり、街にやさしい人づくり」を政治信条に掲げました。

それ以来、今日まで一貫して「住民生活の向上」「安心安全の町づくり」「住みたい住み続けたい街づくり」のため、日常は地域の人たちと一緒に福祉活動・防災活動・農協事業・農業共済事業等の地域には不可欠な活動に参加しているところであります。

中でも、二十六年間の消防団活動がバックボーンとなり「福祉と防災」をメインテーマに掲げ政治活動をしており、それが現在の私自身のライフワークとなった昨今であります。

これらの行動は、今、顧みるに高校時代の教えに原点があるように思えて成りません。

その高校生活はと言うと農業クラブ、生徒会活動が中心でありました。また、部活は文芸部に籍を置き、図書部長も務めさせていただき客員として弁論部、海外移住研究部、写真部と複数にわたり、果ては演劇同好会を作り、市体育館にて公演までした。あの「米倉齊加年の袴華れ」平安時代には名高い盗賊と藤原保昌の物語を記憶しています。更に、思い出を辿ると脳裏に浮かぶのは、農場の「休日当番」「宿泊当番」「作物管理・畜産管理」の辛さと楽しさでした。今思えば、こうした高校生活から「シンノウ精神」（真農の教え）

最後に、更なるインテリジェンスを求めるため、「高邁な品性」「公明な資質」「無限の包容力」「厳格な意思」「卓越した識見」「非凡な洞察力」この六条を胸に「昨日の専門家より明日の専門家」過去より未来を目指し頑張っていく所存であります。



就農して

平成二十二年卒業

直井 大貴

私は、上三川町で水稲とイチゴを栽培する専業農家です。面積は水田一三〇a、イチゴ三〇aです。本校在学中は生物生産科に所属し、野菜を専攻していました。授業内ではイチゴやトマト、キャベツなど様々な野菜を栽培し、知識や技術を学んだことを覚えています。課題研究では、イチゴの種子を利用した新品種開発に取り組み、色々な失敗もありました。授業だけでは分からないことを学べたのもこの課題研究の成果だと思っています。

また本校在学中、私は農業クラブの会長という貴重な経験をする事ができました。ニュージランド派遣研修や農業の知識を競う鑑定競技大会など様々な行事に参加しました。

真岡北陵高校卒業後は更にイチゴに関する知識・技術の習得はもろろのこと、将来に渡って助け合える仲間を作りたいと思い栃木県農業大学校園芸経営学科野菜専攻に進学しました。農業大学では高校のように野菜全般を学ぶのではなく、イチゴ一色の実習となりました。私が農業大学で一番記憶に残っているのは、夏休みを利用した農家派遣実習です。地元のイチゴ農家にお世話にな

農業クラブ活動報告

顧問 朝倉 裕貴

今年度も昨年度に続き農業クラブ活動では、各種競技・発表大会への出場や北陵高朝市などを行ってきました。

栃木県学校農業クラブ連盟大会は、各種発表大会および式典が栃木県教育会館で開催され、各校ともに素晴らしい発表でした。本校からは、意見発表会では、区分「食料・生産」で食品科学科三年の西村由里、区分「環境」で生物生産科三年の菅谷美佳、区分「文化・生活」で食品科学科二年の二橋奈々がそれぞれ優秀賞に輝きました。

夏に開催されたフワワーアレンジメント競技会では、生物生産科三年の川原杏理が最優秀賞を受賞し、十一月に愛知

農業クラブ会長として

三年一組 高野澤 俊介

私が農業クラブの会長になって、一年が過ぎました。最初は、この大任を務めることができたのかと不安でした。しかし実際に活動が始まると、この経験が私の中で力に変わっていくことを感じました。

本年度の農業クラブの活動は、一月に鹿沼市で行われた新役員研修会から始まりました。本校の生徒同士、また、初めて会う他の農業高校生と交流を深めることも、今後行われる役員研修会での会議の流れなどを学びました。

機械」に出場した農業機械科三年の秋島翔太が最優秀賞になりました。十数年ぶりの最優秀賞という事で嬉しいニュースとなりました。代表者会議では、全国のクラブ員と活発な交流をすることができたようです。

十一月には、本校農場の水田を使用して収穫感謝祭を実施する予定でしたが、今年は雨のため、農場の車庫や駐輪場を利用して実施しました。畜産部の豚肉、農場で収穫した野菜や米を使ってカレーライスを作り、一年の収穫を感謝してお祝いしました。また、今年もカレーコンテストを実施しました。農業機械科の二年生が最優秀賞に輝きました。

今年一年、様々な活動を行い、生徒は充実した日々を過ごし、成長でき

シエ)では、本校で収穫されたナシやブドウなど、果物を中心に販売し、沢山のお客様が来校してくださいました。

十一月に行われた収穫感謝祭は、私が会長としての最後の行事でした。雨天のため例年通りに水田で調理を行うことはできませんでしたが、本校で収穫された米や野菜、豚肉などを使い、皆で楽しくカレー作りをしました。

今年一年を振り返ると、どの活動もすべて、役員や顧問の先生方の支えがあったからこそ、会長として務めることができた内容でした。行事の企画運営も難しく、何度もう

生徒会活動報告

顧問 中島 篤志

今年度の主な取り組みについて報告いたします。一学期はじめには、益子特別支援学校との交流会や生徒総会がありました。生徒会各係ごとに分かれ、事前準備から当日の運営までやり遂げることで、六月の体育祭では、第一体育館の改修工事も完了し、三年ぶりに室内競技を充実させることができて、例年以上に盛り上がりました。男子バスケットボールでは、優勝チームと教職員チームのエキシビジョンマッチが行われ、体育館中大歓声に包まれました。生徒会は大本部の下、各種目ごとに二、三人役員を割り当て、進行がスムーズに行われるよう協力して取り組みました。

秋には北陵祭が行われ、今年度は台風二

生徒会長として一年間を振り返って

三年四組 大石 ひとみ

私が生徒会長として活動して早一年がたちました。初めは、この大任を果たすことができたのか不安で一杯でしたが、諸先輩方の力を借りながら、一年間を過ごすことができました。生徒会では、過剰な活動はとめて早く、楽しく活動できるように心がけてきました。このことが自分の力で力に変わっていくのだと変わってきたのだと気が付きました。

予餞会から始まり、体育祭、北陵祭など様々な活動を行いました。最初のころは、右も左もわからず生徒会長として生徒会の中心になんて動くことができませんでした。話し合いの場でも、積極的に意見することや、司令などができるようになりました。しかし、生徒会長だからとうまくまとめられ

くことができなかったのは、非常に残念でしたが、生徒達からは限られた時間の中でできるだけ工夫がほしいという声が届きました。

三学期からは新役員にバトンが渡され、先輩たちには負けまいという意気込みでスタートしました。さらに工夫を凝らして今以上に活発な運営ができるよう見守っていきたく思います。今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

ございました。最後になりましたが、校長先生をはじめとする諸先生方、生徒の皆様、本当にお世話になりました。この一年間は私にとってとても貴重な経験になりました。より良いものを作るためには、いろいろなことを学ばなければいけません。責任感の大切さなど様々なことを学ぶことができました。今後は、新生徒会長を中心に真岡北陵高校の新たな発展と成功を祈念しております。一年間本当にありがとうございました。

私たちが会長として、これまでやってこられたのも生徒会のメンバーに支えられ、先生方のご指導やサポートがあったからこそです。本当にありがとうございました。



家庭クラブ活動報告

顧問 沼田 美季

学校家庭クラブは、家庭科を学習する高校生を会員とし、家庭科の学習を通して、学校内や地域の生活に目を向け、問題を発見し、その解決の方法を探り、生活の改善、向上を目指す実践的な学習活動をおこなう組織です。「創造・愛情・奉仕・勤労」の精神を柱とし、本校では教養福祉科が福祉教育の中で家庭クラブ活動を展開しているところに特色があります。

本校の家庭クラブは、奉仕活動、交流活動、研究活動に力を入れており、充実した活動をおこなっています。

奉仕活動としてペットボトルキャップ回収を始めています。

家庭クラブ活動を通して

三年五組 中村 映理

家庭クラブの会長として活動し、早いもので一年が経ちました。この一年を振り返ってみると、いろいろな面で皆さんに支えていただきながら、たくさん活動をおこなうことができたと思います。

家庭クラブのおもな活動としては、ペットボトルキャップ回収・ハンドソープの詰め替え、設置・調理講習会などがあります。調理講習会では、教養福祉科全学年の交流会という意味も含めて開催しており、おいしいお菓子や料理を作りながら、毎回頭を活動をおこなっています。

してさらにその輪が広がっています。今後は各教室への回収ボックスの設置を目指したいと思っています。

交流活動では、調理講習会をおこないました。

役員の提案により、簡単にできておいしいブラウニー、そしてクリスマスにはデコレーションケーキを作りました。国家試験の受験を控えた教養福祉科三年生にも、作ったケーキを食べていただき、後輩一同エールを送りました。調理、会食をしながら学年の絆を超えて交流をおこなうことができ、有意義なひとときとなりました。

研究活動である校内意見発表会では、各学年の代表者による意見発表、一年生のエプロンシアター、

また、昨年度は第六十一回研究発表大会で本校が発表校だったという点もあり、福祉について発表をおこないました。とても緊張しましたが、今では人前で話すという点にも慣れ、自分にとってプラスになった経験だと思っています。

家庭クラブではさまざまな活動をおこなっていますが、その中でも特に力を入れておこなってきたのはペットボトルキャップ回収です。この活動は、ペットボトルキャップを集め、それをワクチン寄贈団体に寄付し、発展途上国へワクチンとして届けるというものです。限

手話、三年生のパワーポイントによる調査研究の発表などがおこなわれ、他者の意見や授業の成果を知るよい機会となりました。

家庭クラブ活動を通して「思いやり」そして「こころ」のつながりの大切さに気づき、豊かな心が育まれることは大変意義のあることだと思います。

最後になりますが、今後の家庭クラブ員の益々の活躍を期待しています。

最後になりますが、先生方をはじめとする、家庭クラブ役員、家庭クラブ員の皆さん、温かいご支援ありがとうございました。今後の家庭クラブ活動が、真岡北陵高校の発展へと結びつきますよう祈念しております。短い間でしたが、ありがとうございました。



生物生産科近況

科長 北見 雅幸



生物生産科では学科目標「栽培や飼育を通して農業経営や地域産業で活躍する人材育成」を掲げ、普通科目から農業の実践学習、資格取得などに取り組んでおります。農業の授業も時代や

農業機械科近況

科長 藤田 将輝

農業機械科の生徒活動状況と地域に根差した人材育成を目標に実践している学科の取り組みについて紹介します。

今年度の生徒活動状況について報告します。
①平成二十五年十月二十三日(木)に埼玉県立杉戸農業高等学校で開催された「第六十四回日本学校農業クラブ全国大会 首都圏大会 農業鑑定競技会(区分 農業機械)」において、農業機械科三年秋島翔太が最優秀賞を受賞しました。秋島は七月上旬の校内農業鑑定競技で本校代表に選ばれてから、夏休みも返上し朝早くから夕方まで、農業機械の構造や機械要素の名

先でも活かせるソフトの使用やプレゼンテーションなどを学習しています。その他「植物バイオテクノロジー」「生物活用」など二年生からは選択希望で実施、三年生では課題研究により深められるよう展開しています。また、今年度の職場体験事業・インターンシップでは計二十七件の各農家・事業所様にお世話になりました。貴重な体験をさせて頂きました。

こうした生徒たちの努力や結果は地域の皆様のご協力もあり各地で披露いたしました。野菜、草花では、販売の他、給食食材、各地施設の植栽に使用して頂き、果樹では朝市から名称変更した「おしやらくマルシェ」



で好評をいただき、畜産では、乳牛において中部日本や関東大会などの共進会入賞の他、現在は「和牛」の経営に取り組んでおります。作物では全学年に実習する場を提

前・特徴、排気量や電気回路の計算問題に奮闘しました。その結果、最優秀賞を勝ちとることができました。「後輩たちも続いてほしい」と志願し、後輩への指導も行っています。

②平成二十五年十一月九日(土)に栃木県立県立産業技術専門校で開催された「とちぎものづくり技能競技大会 溶接の部(第四回栃木県高等学校溶接コンクール)」において、農業機械科二年 市川直希が優勝、同じく二年青山京平が四位(技能賞)となりました。優勝した市川は全体でも一位となり、平成二十五年栃木県職業能力開発促進大会で表彰を受け、関東甲信

「ト」と呼ばれる全国大会が二十六年度、秋に真岡市で行われ、私達も参加していきたいと思っています。学科で学ぶ「生命に触れ、生産を育み、学ぶ」はどんな時代にも揺るがない学習であり、将来の指針となるべく同窓生、地域の皆様のご指導を賜りながら取り組んで参ります。

イノシシによる農作物の被害が増加し、農家の方々が対策に悩まされていることを知り、貢献できないかと考え、真岡市や猟友会と連携して鉄製の箱罠を製作して設置しています。

③平成二十五年八月八日(木)に栃木県で開催された「平成二十五年年度農業機械科二年 小林廉、大森翼、小林貴人が一園芸用施肥機能付き電動穴掘り機の開発」という題目で発表し、みごとコンペを勝ち抜いて最終発表へと進出しました。



市員町と芳那の水晶湖ふれあいの郷協議会が行っている市員町芝さくら公園のシバザクラ補植ボランティア活動に平成二十三年より参加しています。この補植ボランティア活動の問題は、補植の際に踏み締められた地面が固く、移植で穴を掘るのには、力が必要であり効率が悪い、女性や子どもにはかなりの負担になっているところだ。そこで、電動ドリルに穴を掘るためのアタッチメントを開発作成して園芸用の電動穴掘り機として

実用化を目指しています。③真岡鉄道各駅構内のフラワースタンド製作と設置 本校生徒が通学に利用している真岡鉄道各駅の清掃活動を年2回行っていますが、駅構内の美化活動も行おうと、各駅に合ったデザインを施してフラワースタンドを製作して設置しました。

以上のように農業機械科で習得した技術を発展させて、研究を行っています。今後も地域貢献できるように取り組んでいきたいと思っています。

食品科学科近況

科 長 大塚 昌法

食品科学科では、「食品関連企業への従事者を養成する学科」として、今年度も農産物の加工や製造技術及び販売指導を重点目標に取り組んだ。

パン類では、食パン・フランスパン・クロワッサン・メロンパン・クリュームパン等を、めん類では、そば・うどん・パスタ・中華めんを、ジャム類では、イチゴジャム・ブルーベリージャムと昨年製造できなかったリンゴジャムを、肉加工品では、ベーコン・ウインナーソーセージの製造を行った。また、スポンジケーキやそれを使ったデコレーション実習も行った。例年、地域の多くの皆様からご利用いただいている味噌も昨年並みの製造ができた。台風の影響で北陵祭の一般公開が中止になり、加工品の販売ができなかったが、農場祭が例年にも増して盛況でお客様の長蛇の列ができるほどで、沢山購入いただいた。

インターンシップ推進事業では、勤労意識の涵養あるいは食品関連産業技術者の育成をねらいに今年も各事業先にお世話になり実施することができた。真岡工業団地及び清原工業団地の食品関連企業、真岡市内及びインターパーク内店舗、真岡市内菓子店、各スーパーの総菜店等で生徒は体験実習を行った。今年度の

受入先は、真岡市内のパン屋及び食品関連企業、宇都宮市内のパン屋及び製菓店など五社ほど新規開拓することができた。一年生先進地見学は、今年はカバヤ食品関連工場（常陸大宮市）、めんたいパークかねふく（大洗町）の二社を見学研修してきた。

民間講師招聘事業は、三年生がTBC調理専門学校宇都宮校の岡本先生及び現役生徒らによる洋食実習の指導を受けた。各資格取得の指導は、食生活アドバイザー二級、ボイラー取扱技能講習、危険物取扱者資格内種・乙種、ワープロ検定等にチャレンジし、大きな成果を上げた。

農業クラブの活動では、プロジェクト発表で優良賞、意見発表では食料生産と文化生活の二部門に出場し優秀賞を受賞した。また、農業クラブ全国大会（首都圏大会）では、農業鑑定競技の食品化学コースで優秀賞を受賞した。

その他として、昨年度に設立された食品科学同好会の活動を報告したい。昨年度に『MOKAいちごグルメ甲子園』において、グランプリを受賞した『いちご飯』は今年度においても県内外からの反響は大きく、各種イベントや取材協力の依頼を受けた。NHKテレビの

「おはよう日本」では、生徒たちの活躍が生中継によって紹介された。また、NHKテレビ「Rの法則」の番組では、地元真岡市内の中華料理屋「文珍楼」との連携した活動が紹介された。

六月のイチゴのシーズン終了間際には、『いちご飯関係者による懇談会』が同じく「文珍楼」で開催された。この会合は、真岡市長をはじめ、真岡市農政課と観光商工課の職員の方々、道の駅「にのみや」の方々、FM放送のREDIO BERRYや朝日新聞、下野新聞などのメディア関係者など、予想を上回る多数の参加者の中で行われた。

真岡の新しい郷土料理としての『いちご飯』を開発した生徒達の活動が報われ、参加者全員で郷土料理として、さらに普及活動を展開し、定着させ知名度を上げようと誓い合った。

その他の活動としては、『絶品！うまいもん甲子園』という、ご当地グルメのコンテストに三作品エントリーしたところ、そのうちの二作品、芳賀地区の特産物ニラを使った『にらピース小籠包』が関東甲信越ブロックの一次審査（レシビ審査）を通過した。ニラは芳賀地区にら部会長である地元真岡市のニラ栽培農家の渡辺栄様より提供いただいたほか、栽培現場の見学やニラ栽培の現状なども指導していただいた。一次審査を通過したのは、

五作品のみであった。二次審査（実演及びプレゼンテーション）は、埼玉県越谷市の東京ガスを会場に行われた。甲子園（東京都育有楽町）に行けるのはブロックで一校のみと厳しく、惜しくも出場を逃した。しかし、生徒達は大勢のギャラリイや審査委員、報道関係者らの前でも、物怖じせず、堂々と実演及びプレゼンテーションをしてみせた。

十月の真岡「天の織姫市」では、真岡市観光協会主催による『はっとHOTな真岡のグルメ市』というイベントが開催され、食品科学同好会も先の「文珍楼」の全面的な協力を頂き、『ももかナス丼』というコラボレーションメニューで出店参加した。大勢のお客様で賑わう中、北陵高校の生徒として大活躍であった。

こういった食品科学同好会の活動は栃木県レベルでも高い評価を受け、『とちぎ地産地消夢大賞』の教育部門において、優秀賞を受賞した。



「絶品！うまいもん甲子園」の二次予選



「とちぎ地産地消夢大賞」の表彰式



「いちご飯」関係者による懇談会



NHK「おはよう日本」の生中継

総合ビジネス科近況

科 長 上久保 貴 見

総合ビジネス科では、ビジネスに関する各分野について基礎的・基本的な知識と技術を習得し、ビジネスにかかわる業務に従事する者及び経営者として必要な能力と態度を育てることを目標としています。

今年度の取り組みとしては、六月に三年生の代表（八名）が、栃木県高等学校生徒商業研究発表大会に出場し、ヒット商品のからくりとその価格

政策について研究発表をしました。検定前にも関わらず、放課後を利用して一生懸命発表練習をしていました。

また、三年生が商業機関見学として、情報通信関係の総合博物館である通信総合博物館を見学しました。

「郵政事業」、「電気通信事業」、「放送事業」について学んできました。日本初の携帯電話（ショルダーフォン）を見て生徒たちは興味深そうに見て

いました。尚、飛脚の蜷人形の前で写真を撮っていた生徒もいました。

十一月は、二年生が、

実させた一年でした。生徒たちはよく頑張ったと思います。

教養福祉科近況

科 長 小 林 浩 子

教養福祉科は、平成二十一年度より国家資格である「介護福祉士」の養成校に認定された。そのため、これまでより福祉・介護に関する専門性の高い知識と技術が求められるようになった。そして今年度の入学生から、

「医療的ケア」の分野も一単位増加導入され、痰の吸引や経管栄養等の演習を授業の中で実施する事になった。これは、少

子高齢化に伴い、医療ニーズの高い高齢者の増加が見込まれること、より安全なケアを実施する介護現場の実情に合わせた

「介護福祉士」が日常の医療ケアを実施する必要性が高まったことによる。一八五五時間の授業時数を確保するため、通常授

業の他に、七限目の授業や夏休み冬休みなどの長期休業中にも授業を行っている。学校行事や部活動等にも配慮が必要になる。高校生として部活動や学校行事を通して様々なことを体験してほしいという思いと、資格取得のための授業の確保など調整が難しい。しかし、高校福祉科で、この介護福祉士の受験資格が取得できるのは養成校だけである。せっかく本校の教養福祉科に入学してきたからには、やはり国家資格を自分のものにしてほしいと思っている。

授業のなかに「介護実習」があるが、これはすべて校外での実習になる。一年生でデイサービスセンター、グループホーム

で十三日間。二年生で高齢者施設、障害者施設、訪問介護実習十七日間。三年生は高齢者施設に二十五日間。三年間で五十

五日間の現場実習になる。この「介護実習」を通して、施設の利用者や指導者から多くの事を学び、自分の進路に繋げる生徒も多い。

本年度も外部講師講話や校外学習など多くの事に取り組んできた。一年生では、大学の先生、視覚障害者、介護現場で働く卒業生の講話、手話講習会。二年生では障害者施設、特別養護老人ホームの見学・講話。認知症サポート講習会。三年生では絵画教室、真岡市社会福祉協議会の方からの講話、東京で行われた国際福祉機器展の見学。これら様々な体験を



全国産業教育フェア

愛知大会に出場して

三年一組 川原 杏理

私は七月に行われた栃木県農業クラブ連盟主催のフラワーアレンジメント競技会で最優秀賞を頂き、十一月九日に愛知県名古屋で行われた、第二十三回全国産業教育フェア愛知大会フラワーアレンジメントコンテストに出場することができました。この大会では全国の専門学校等の生徒が集まり、フラワーアレンジメントの技術やデザインの芸術性を競い合いました。私は高校三年生になり、初めてフラワーアレンジメントを学びました。私に思っていた以上に、花の一つ一つの個性や花の表情を引き出すことは難しいことでした。レッスンに行ったり、自主練習を行ったりすることで、様々なフラワーデザインを学ぶことができ、花の扱い方などの基本的なことも学べました。昨年の全国大会のフラワーアレンジメントの写真をみると、全国のレベルの高さに驚きました。私もこの中の一人になるのだと思うと練習に力が入り、フラワーアレンジメントの技術やデザインを勉強し、良い作品になるように一杯練習をしました。今回の大会で使う花器と花材の一部は、一カ月前

にインターネット上で発表されました。発表された花材と花器をもとに、全国大会でのアレンジのイメージを作り上げ練習を行うことにしました。練習を重ねていくうちに、私の中で「希望」というテーマで作品を作ろうと思いました。競技時間が五十分と、県大会に比べて十分と短くても不安でしたが、あせらず、自分でイメージしたもの最大限に表現しようと競技に挑みました。それが功を奏し、練習してきた成果を一杯出すことができ、自分の中で納得のいく作品が出来ました。望んでいた結果とはなりませんでした。全国大会に出場できて本当に良かったです。私は、私を支えてくれた人達にとても感謝しています。これから

もフラワーアレンジメントを続けていき、たくさんの人を笑顔にできるような作品を作っていきたいです。この経験を生かし、社会人として、物事に精一杯取り組みたいです。



第六十八回国民体育大会

三年一組 沢田 涼

私は十月四日から六日にかけて、埼玉県長瀬町で行なわれた第六十八回国民体育大会ライフル射撃競技デジタルピストル少年男子立射四十発競技に出場しました。残念ながら入賞は八位まで、十位という結果に終わりました。この大会は、都道府県の代表選手が各ブロックの予選会を勝ち抜き出場する大会です。私は予選会で三位に入賞し、国体出場の手を切った時はとても嬉しかったです。私は「栃木県代表として悔いのない射撃をする」という目標を決め、練習に励みましたが、なかなか点数が伸びず、私の就

職試験が国体の一週間前にせまっていたこともあり、私は不安でいっぱいでした。その為、練習への意欲が低下してしまいましたが、友人や部活の後輩に「頑張ってください」と言われたことをきっかけに、自分自身を立て直すことができました。実は、私は国体で試合をする前に悔いを残してしまっていたため、後輩からの声援は、前向きに考えるよいきっかけとなりました。ホテルの自室では、自分のフォームを確認したりなどをしました。公開練習では、安定した射撃ができ、本番への自信

がつきました。そして本番の日、私は朝から緊張と不安でいっぱいでした。県代表であることや良い結果を残さなくてはならないなど、様々なことがプレッシャーとなり私を襲って来たのです。また、国体の会場は、他の大会の会場よりも観客が多く、自分がどこを狙っているのか、観客の目の前のディスプレイに映るため、より緊張を呼びました。試合中、私は緊張で震え、引き金が重く感じられました。何とか緊張をおさえ、本番を迎えましたが、結果を見てとても悔しかったです。しかし国体に出場できたことは誇りに思います。人間は失敗や悔しさを味わわなければ成長しないと思います。私は、今回の経験でそれを学び、



第二回アジアユースゲームズ

二〇一三南京大会

三年一組 松本 実久

私は、今年の八月十六日から八月二十四日にかけて、中国の南京で行われた第二回アジアユースゲームズ二〇一三南京大会ライフル射撃競技に、エア・ライフル少年女子立射四十発競技に出場させていただきました。この大会は、四年に一度開催される大会で、アジア二十七カ国の代表選手が十二種目で戦うアジアのオリンピックのような大会です。

私は、「初めての世界大会だから楽しく全力で射撃をする」という目標を立てました。この世界大会の出場を決めた大会が、三月九日から十日にかけて行われた全日本エア・ライフル射撃選手権大会です。この大会は、

改めて、射撃の奥深さや面白さを知ることができました。私は今後も射撃を続け、来年もまた国体で戦えるように、日々頑張っていきたいと思っています。

関東高等学校弓道個人選抜大会に出場して

一年四組 鎌田 厚志

私は今回、八月に行われた県大会で十位になり、九月十四日、十五日に東京武道館で行われた第三十二回関東高等学校弓道個人選手権選抜大会に出場してきました。各都県で県代表になった選手を「那須与一」の様な立派な射士に育成することを目的として開催された大会です。私は、中学生の頃から弓道をやっており、中学生の頃は的中させる

ことができず、大会では毎回悔しい思いをしてきました。高校に入ってからは、顧問の先生や先輩に教わり練習した結果、関東大会に出場することができました。関東大会の一日目は、本番と違う会場で練習を行った後、開会式が行われました。練習では、各都県代表の選手がピリピリとした雰囲気の中、自分の射形を見直しなが

大会への切符を手にするものが出来た。顧問の先生から連絡をもらって二日ぐらいいい。自分ではいいのじゃないかと不安の気持ちでいっぱいでした。しかし、全日本選手権で順位がつけられる大会で、北陵高校からは七名が出場しました。私はその大会が、エア・ライフル競技の二回目の大きな大会でとても緊張していました。また、公開練習無しの本番だったので、宿舎でも射撃場でも落ち着きませんでした。しかし、私の試合の時間はだんだん近づき、試合が始まりました。緊張が解け、射撃が当たりませんでした。自分の心の中であせりと不安を切り返して本射は無意識の中で無我夢中で撃ち続け、参加している高校生の中でトップの成績を出すことが出来ました。大会後は、ナショナルチームの合同合宿などに選抜され、世界

大会の雰囲気慣れしてきました。そして、開会式の前に本番の特設射場で、本番さながらの緊張感の中、良い感じで弓を引くことができました。開会式の後は矢渡しが行われ、普段の大会とは違った雰囲気味わうことができました。本番当日は、関東大会ということもあり、いつもと違った緊張感がありました。関東大会は、県大会と形式が異なり、関東大会特有のルールだったので、入場してから戸惑わないように前の立ちを見ながら、自分の立ちが来るま



で緊張しながら待っていました。そして順番が回ってきたのですが、予選敗退という悔しい結果で終わってしまいました。今回、関東大会に出場して多くのことを学ぶことができました。まず弓道は、他人との戦いではなく己との戦いであることです。そして、一つの射を大切に引く気持ちと、自分勝手にやるのではなく、相手を思いやる気持ちを持つことが大切であるということです。特に、自分以外の県代表の選手を見て、私は、少し軽い気持ちで大会に臨

大会への切符を手にするものが出来た。顧問の先生から連絡をもらって二日ぐらいいい。自分ではいいのじゃないかと不安の気持ちでいっぱいでした。しかし、全日本選手権で順位がつけられる大会で、北陵高校からは七名が出場しました。私はその大会が、エア・ライフル競技の二回目の大きな大会でとても緊張していました。また、公開練習無しの本番だったので、宿舎でも射撃場でも落ち着きませんでした。しかし、私の試合の時間はだんだん近づき、試合が始まりました。緊張が解け、射撃が当たりませんでした。自分の心の中であせりと不安を切り返して本射は無意識の中で無我夢中で撃ち続け、参加している高校生の中でトップの成績を出すことが出来ました。大会後は、ナショナルチームの合同合宿などに選抜され、世界

大会の雰囲気慣れしてきました。そして、開会式の前に本番の特設射場で、本番さながらの緊張感の中、良い感じで弓を引くことができました。開会式の後は矢渡しが行われ、普段の大会とは違った雰囲気味わうことができました。本番当日は、関東大会ということもあり、いつもと違った緊張感がありました。関東大会は、県大会と形式が異なり、関東大会特有のルールだったので、入場してから戸惑わないように前の立ちを見ながら、自分の立ちが来るま



目標を達成することができなかったのはとても悔しい思いでしたが、この世界大会を通して、練習を支えてくださった顧問の先生や部の仲間、そして両親へのありがたみを改めて実感しました。私は高校を卒業しても射撃を続けるため、高校で経験したことや得たことを生かし、頑張っていきたいと思っています。

関東大会【北関東】に

出場して

一年四組 上野 友 詩

私は、平成二十五年六月十四日から十七日にかけて、埼玉県熊谷市で行われた第六十六回関東高等学校陸上競技大会に出場しました。この大会は関東大会ですが、北関東と南関東に別に分かれます。北関東は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県の都三県です。決勝で六位以内になるとインターハイに出場することが出来ます。

関東大会は、各県大会から勝ち抜いてきた選手が県代表として出場します。私が走る日は十六日、三日間調整練習をして十六日に大会に挑みました。その日は、朝から緊張しました。八百メートルは八人三組に分かれ、各組の予選で二着以内に入ると決勝に進むことが出来ます。決勝には八人行くことが出来、残り二人は予選で記録が良かった者が行くことが出来ます。

私は組で四着でゴールしました。結果は、二分十七秒九四で予選落ちでした。決勝に行ける記録は二分十六秒八一まででした。私の自己ベストは二分十五秒なので自己ベスト



で走っていたら決勝へ行くことができたのでとても悔しい思いをしました。栃木県の八百メートルの選手で決勝へ進出したのは一人でした。

来年は、今年の大会でのレースで学んだことを来年のレースで発揮したいと思っています。そして一つ一つのレースを大切にしていこうと思います。

関東大会を走って

一年四組 関 上 利 華

私は、六月十四日から十七日までの四日間、埼玉県熊谷スポーツ文化公園で開催された関東大会に出場しました。この大会は各県ごとに開催される総合体育大会県予選で上位六位までに入賞すると出場することが出来ます。私は一五〇メートルで県予選を一位で通過し出場権を得ることが出来ました。

一五〇メートルは、大会初日から行われるため前日から現地入りをして調整練習を行いました。少しでもベストの体調で走ることが出来るよう、



た。私が走る日は十六日、三日間調整練習をして十六日に大会に挑みました。その日は、朝から緊張しました。八百メートルは八人三組に分かれ、各組の予選で二着以内に入ると決勝に進むことが出来ます。決勝には八人行くことが出来、残り二人は予選で記録が良かった者が行くことが出来ます。

私は組で四着でゴールしました。結果は、二分十七秒九四で予選落ちでした。決勝に行ける記録は二分十六秒八一まででした。私の自己ベストは二分十五秒なので自己ベスト

長崎しおかぜ総合文化祭に参加して

三年三組 杉 山 可 菜 美

私たち吹奏楽部二十五名は、長崎県佐世保市を会場として開催された吹奏楽部門に、栃木県代表として参加してきました。コンクールとは違って緊張感はありません、全員が楽しくのびのびと演奏することが出来ました。

客席では、他県の高校生や、一般のお客さんが、ノリの良い手拍子をしてくれていました。そのおかげで、私達一人一人も楽しんで、良い演奏ができたと感じています。栃木弁全開の学校紹介を、私達が自ら考え、披露すると、ちょっとしたこと

にも大いに反応し、大爆笑してくれて会場を温めてくれました。郷土色豊かなステージを、この要望で栃木・真岡のアピールに一番に思いついたのは、「いちご」でした。いちごを連想させる衣装を皆で話し合い、工夫しながらすべて手作りしました。衣裳を着て会場に行くと、周りの方々から「かわいい！いちごごだ、栃木じゃない？」と、好評の言葉を頂きました。ステージでは、栃木の名物を紹介しながらダンスをし、手作りのかぶり物や着ぐるみも登場し、会場を盛り上げることに出来ました。

また、栃木弁で言葉交わすことで、さらに栃木の魅力をアピールできました。このように、私たちが気持ちよくこの大会に参加できたのは、しおかぜ総合文化祭の運営スタッフの方々や、同窓会の皆様のおかげです。説明が分かりやすく大盛り上がりでした。そして受付・誘導・搬出のサポートが徹底されており、私たちは迷うことなく演奏ができました。



日本学校農業クラブ

代表者会議に参加して

二年三組 平 野 結 夏

私は、十月二十三日から二十四日にかけて行われた日本学校農業クラブ全国大会のクラブ員代表者会議と式典に、本校の代表として参加しました。私は、一年間副会長として農業クラブで活動し、今年度一月から会長となり、みんなをまとめていく仕事をしています。その為、いつも以上に緊張感が高まる中、今回の会議に参加し、全国の農業クラブの意識の高さを実感しました。

私の参加したクラブ員代表者会議では、分科会

が第一から第三まであり、会場は九つありました。議題は『クラブ員が興味を持つ活動には、どのようなものがあるか』です。発表校の長崎県の農業高校では、クラブ員が少ないからこそクラブ員皆で楽しめる行事をつくり、農業クラブでの活動を知り、興味を持ってもらうために壁新聞を作るなど、様々な方法で活動していました。本校でも、収穫祭や米作りボランティアへの参加などを行っています。アピール方法など、参考になり



この大会に参加して学んだこと、見直さなくてはならないところがたくさんあり、勉強になりました。この度の大会参加について、いつも応援して下さい。先生方、そして支えてくれた家族、援助してくださった同窓会の皆様、改めて、感謝申し上げます。

とても良い思い出ができました。本当にありがとうございました。

に近づく第一歩となる、とても良い経験でした。クラブ員代表者会議に参加して、私は様々な体験をして知識を吸収することができました。このことを忘れずに、これからの農業クラブ活動に生かしていきたいと思います。

日本学校農業クラブ全国大会
農業鑑定競技会に参加して

三年二組 萩 薫 翔 太

私は十月二十三日から二十四日にかけて行われた第六十四回日本学校農業クラブ全国大会（首都圏大会）の農業鑑定競技に出場しました。本来なら今年度は宮城県での開催予定でしたが、一昨年の震災の影響で急きょ首都圏での開催となりました。

農業鑑定競技は、農業の中でも九分野に区分され、それぞれ分野に関する知識や技術を競うもので鑑定、判定、計算、測定など一問二秒の計四十問を解答する競技です。私は農業機械分野に出場しました。この大会に出場することになったきっかけは、校内の予選です。そこで良い成績を残すことができたので先

生から声を掛けていたが、きき出場所することになりました。全国大会への勉強は、夏休みから本格的に始めて毎日のように学校にきて、見たことや聞いたことのない機械に関する名称を、インターネットなどで調べ、先生に聞いてその内容を一冊のノートにまとめて勉強しました。徐々に増えてゆくページ数に達成感を感じてはいましたが、それに実力がなかなか伴われなかったのです。何度も投げ出したくなりましたが、あきらめずに必死に覚えようと努力しました。そのため、過去問ではある程度までとまった点数が取れるまでにはなりませんが、大会当日二日前に解いた去年の過去問は六

割しか解けず、不安の残る中、本番に挑みました。当日は、大会の雰囲気や、他校の出場者に圧倒され、かなり緊張して手が震えながらの解答でしたが、意外にも手ごたえがあり、自己採点でも九割取れていたで「もしかしたら」と思いの結果を待ちました。そして翌日の早朝に先生から電話があり、「最優秀賞になりました」と言われた時には本当に嬉しかったです。これまでも努力して大きなことを成し遂げたことがなかったのが、日本一となることができたことは、今後の自分への自信に



もなりました。
最後に、忙しい中時間を割き、放課後遅くまで御指導いただきました機械科の先生方に感謝いたします。ありがとうございました。

とちぎものづくり技能競技大会

【溶接の部】に参加して

二年二組 市川直希

私は、十一月九日に栃木県立県央産業技術専門学校で開催されたとちぎものづくり技能競技大会の溶接の部に参加し最優秀賞を頂くことができました。

なお、溶接の種目については、一般社団法人栃木県溶接協会による第四回栃木県高校生溶接コンクールを兼ねており、優勝することができたので来年度四月に行われる関東甲信越高校生溶接コンクールに出場することが決まりました。

私が、この大会で優秀な成績を収めることができたのは、ご多忙の中溶

接協会から来て指導をしてくださった相澤さん、並びに、練習材料を用意して指導してくださった印出井先生、坂本先生、そして、応援してくださった皆さんのお陰です。

私は、大会に参加するための練習を始めた時は、とても上位に入賞できる仕上がりではなく、練習してもあまり上達しなかったため、「最初よりはよくなったけど、優勝できない。」と言われていました。

私は、その程度の仕上がりそのまま大会に参加することになってしまいました。

しかし、それまでに指導していただいたことを頭に浮かべながら、緊張しないように深呼吸をし、練習通りにリラックスした状態で溶接をスタートしました。

三十分という制限時間の中で、まわりの参加者が早く終了していくのですが、私は、焦らず制限時間ギリギリまで丁寧に仕上げました。個人的には、あまり気に入らない仕上がりだったので、表彰式の時は、とても驚くとともに、嬉しく思いました。

この気持ちを忘れずにさらに練習をして、関東



です。

進路指導部から

進路指導部長 町田 則人

昨今、働き方のバリエーションが増えました。非正規社員は全労働者の三割強になります。それは企業が人件費を変動費（生産量に比例するコスト）にした側面でもあります。今では死語になってしまった日本の経営では、終身雇用により、人件費は固定費（生産量に關係なく発生するコスト）として扱われていました。地球規模の競争にさらされている企業は生き残りに必死です。コストダウンして利益を出さねばなりません。一方、十二月十四日の下野新聞で、栃木県内でも海外への進出

いました。日本政策金融公庫宇都宮支店によると、県内中堅中小企業二百七十四社のうち二十七社がすでに海外へ進出し、ほかに二十三社が検討中といえます。進出先は中国、十四社、ベトナム四社、タイ、フィリピン各三社。

目的は市場確保と安い労働力です。生産拠点を海外に移す企業が増えれば、製造部門の求人は減ります。その多くの部分を頼っている高卒求人にも影響が出そうです。新卒で内定を得ることはとても大きい意味をもってくると思います。

また、十一月二十九日

が就職後三年以内に離職すると報じられました。特にサービス関連業の離職が全産業平均を大きく上回ったそうです。なかにはブラック企業の増加もありそうです。本校はおかげさまで、学校を通じての就職希望者ほぼ全員が内定を得ることができました。管内の企業様はどれも、生徒のことを考えてくださり、ただただ感謝申し上げるしだいです。また、今年も同様、同窓会先輩の陰ながらのご尽力、ハローワーク真岡 ジョブサポーター海老澤様、森様のお力添えもあり、生徒の内定にこぎつけることができました。この場をお借りしてお礼を申し上げますと思います。多謝。

平成25年度 3年生の進路状況

在籍数	学 科 名	男 子	女 子	合 計
	生 物 生 産 科	19	19	38
	農 業 機 械 科	35	1	36
	食 品 科 学 科	8	32	40
	総合ビジネス科	16	21	37
	教 養 福 祉 科	3	25	28
	合 計	81	98	179

(在家・その他12名)

就 職		公務員		県内		県外		茨城県	
	学 科 名	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
	生 物 生 産 科	1	0	13	9	0	0	1	0
	農 業 機 械 科	1	0	21	0	3	0	2	0
	食 品 科 学 科	1	0	4	12	0	1	1	3
	総合ビジネス科	0	0	5	13	1	0	0	0
	教 養 福 祉 科	0	0	2	17	0	1	0	1
	合 計	3	0	45	51	4	2	4	4

(公務員内訳) 自衛隊〔任期制自衛官〕2名 芳賀地区広域行政事務組合(消防)1名

進 学	学 科 名	国公立大学		私立大学		国公立短大		私立短大		教育訓練施設		専門・専修学校	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
	生 物 生 産 科	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	8
	農 業 機 械 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0
	食 品 科 学 科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	12
	総合ビジネス科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	5
	教 養 福 祉 科	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	4
	合 計	0	0	1	1	0	0	0	2	1	0	20	29

部活動紹介

吹奏楽部

私たちの挑戦

このたび「長崎しおかぜ総文祭吹奏楽部門」への参加にあたり、同窓会からの多大なるご支援に深く感謝申し上げます。各都道府県の代表が集うこの大会のテーマの一つである「郷土色豊かなステージを」。これが、私たちの大きな課題でした。「栃木・真岡」をPRするための作戦を練り、時間をかけて大きなステージに

ていた姿は、微笑ましいものでした。遠征中の日頃見られない機敏な行動にも感心したものです。参加して得られたものとはとても多く、これらの全てが「宝もの」になりました。この体験を今後の人生で練習やそれぞれの人生でぜひ活かして欲しいと願っています。お世話になりました皆様、本当にありがとうございました。



しいものです。
同窓会の皆様、今後とも
宜しくお願い致します。

編集後記

今年は、オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定し、昭和三十一年に続き二度目となります。世界各国のアスリート達や関係者が来日します。そして、「おもてなし」の言葉が流行語になりました。言葉が言葉のみに終わらないよう、私達一人一人の行動を大切にしたいものです。現役高校生の皆さん方が大会の中心になるものと思われまます。充分な練習をして、その力を発揮してほ

編集委員

館 芳衛 広田茂十郎
猪野 正子 水上 大嗣
野原理恵子 松本 武隼
川上 達典

同窓会では会報の編集
委員を募っています。是非
あなたのご協力をお願い
致します。